



Lesson13 働くこと



私たちは将来、様々な形で働くことになります。早く働いて、お金をかせぎたいと思っている人もいれば、仕事をするのは大変そうだと今から心配になっている人もいるかもしれません。この課では、私たちがなぜ働くのかを、一緒に考えていきましょう。



1. 働くことについて聖書が教えていること

(1) 働くことは私たちの使命

「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」(創世記 1:28)

神様は最初の人アダムに、エデンの園を「耕させ、また守らせ」(創世記 2:15)しました。神様は初めから人間に、ご自分が創造されたすべての良いものを、良い状態に保つように世話をし、正しく治め、祝福をもたらす使命を与えられたのです。この使命のために、私たちは様々な仕事、働きをします。そしてそれらを通して、神様から大きな祝福をいただき、神様の栄光を現すことができるのです。

(2) 働きに苦しみに伴うようになった理由

「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。」(創世記 3:17)

エデンの園を耕し、守るという働きは、アダムにとって苦しみではありませんでした。けれどアダムとエバが神様の御声に聞き従わず、善悪の知識の木の実を食べ、罪ある者となってから、労働に苦しみに伴うようになったのです。また人間の身勝手さによって、神様が造られた良いものを、良い状態に保つことができなくなり、自然破壊が進み、働きが良い実を結ばないようにになりました。

(3) 働くことの喜び

「また、人がみな食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸を見出すことも、神の賜物であることを。」(伝道者の書 3:13)

人間が罪ある者となった後も、神様の造られたものを正しく管理する使命を、神様は取り上げられませんでした。不完全で、身勝手な私たちになお、世界のあらゆるものを委ねておられるのです。そればかりではなく、私たちの労苦は主の前に無駄になりません。労苦を伴いながらも主によって与えられた働きをする中で、主は私たちに働く喜び、神様に仕える喜びを日々与えてくださっているのです。

2. どのように仕事を決めるか

神様は私たちを選び、救いの恵みに入れ、様々な働きをするように召してくださいました。神様があなたをどのような働きに召して下さっているかを知るために、以下のことを参考にしてください。

(1) 自分の志は何か

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」
(ピリピ 2:13)

将来、どんな仕事をしたいですか。興味や関心は何ですか。神様はあなたの思いの内にも働いてくださいます。ですから神様があなたにどんな思いを与えてくださっているか、祈りつつ考えてみましょう。

(2) 聖書と人のアドバイスを聞く

「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。」(エペソ 4:28)

神様は私たちが正しい仕事をするように勧めています。また自分の願いが神様の願いと同じであるかを確認することも大切です。そのために、みことばに照らし合わせてみることも、また、あなたをよく知っている人にあなたの願いや思いを聞いてもらい、アドバイスをもらうことも参考になると思います。

さらに進路を決める上で、一度は自分自身に問いかけて欲しいことがあります。それは「自分は神様のことを直接人々に伝える牧師や宣教師に召されているだろうか」ということです。もし少しでもそのような思いが与えられているなら、ぜひ信頼できる人に相談して祈ってほしいと思います。

(3) 自分の置かれた状況を考える

神様は、状況を通して導かれることがよくあります。私たちの人生は、主の御手の内にあるのです。今までのあなたの人生を振り返り、今どういう状況に置かれているかを冷静に考えてみましょう。その上で、自分が今置かれている状況を生かして働くことを神様が望まれているのか、それとも別の場所なのかを祈り、主の導きを求めましょう。

(4) 自分の適性・賜物を知る

「それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。」(Iペテロ 4:10)

私たちは様々な賜物を神様からいただいています。自分が気づいていない賜物もあるかもしれないので、家族や仲間聞いてみるのもよいでしょう。そのように自分の賜物を知ること、自分の使命が見えてくることもあります。また仕事をする中で、自分の賜物を発見することもあるのです。神様はあなたにふさわしい使命を与え、その使命が果たせるように賜物、能力、時間、健康、経済などを備えてくださいます。ただし賜物は「棚からぼたもち」式に与えられないので、努力して伸ばしていきましょう。

3. どのように働くのか

(1) 地の塩、世の光として

「あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。」(マタイ 5:13-14)

私たちが遣わされる場所は、神様を恐れず、利益ばかりを追求しているかもしれません。不正があるかもしれません。私たちには、そうした不正、腐敗を防ぐための塩の役割が与えられています。問題に対して、誠実に対処していくように働きかけることで、職場が正しく保たれるのです。このことは勇

気のいることですが、教会の牧師や兄弟姉妹に祈ってもらい、塩気をなくさないようにしましょう。

誠実に、正直に仕事に向き合うならば、信頼されるようになります。それこそ私たちの地の塩、世の光としてのあり方であり、大きな証しとなるのです。

(2) 神の国と神の義を求めて

「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」(マタイ 6:33)

働くときには、自分の利益や出世などを第一としないことが大切です。いつでも神様のことを第一にしていくときに、大きな祝福があるのです。また私たちは仕事が忙しくなると、神様のことを忘れてしまうことがあります。そうならないために自分の働きを通して神様が栄光を現してくださることを期待していきましょう。働くことで、私たちは成長します。確かに働きには忍耐が必要で、日々苦勞があります。でもその忍耐、苦勞を通して、私たちの人間性と信仰が成長するのです。

まとめ

私たちには自己実現のために仕事をするのではなく、神様のため、神の国の前進のために神様に仕え、人々に仕えて行くことが求められています。そして働きを通して私たちは成長し、さらに神様の栄光を現す者へと変えられます。

☆聖句

「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」(創世記 1:28)



考えてみよう

1. 働く上で、大切なことはどのようなことでしょうか？

2. どのような働きをしたいですか？